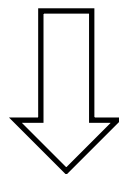


服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

文化学園大学 和装文化研究所

金井光代

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業 (ファッション・デザイン分野)



服飾資料の横断的 **デジタルアーカイブ** を作る
ためにはどうしたらいいかを考える

(ウィキペディアより)

デジタルアーカイブ (digital archive) とは、博物館・美術館・公文書館や図書館の収蔵品を始め有形・無形の文化資源 (文化資材・文化的財) 等をデジタル化して記録保存を行うこと。デジタル化することによって、文化資源等の公開や、ネットワーク等を通じた利用も容易となる。

資料を精緻にデジタル化することにより、オリジナル資料へのアクセスの必要性を減らすことが出来るため、将来的にも資料の傷みを最小限にすることが可能になる。

服飾資料の横断的デジタルアーカイブを作る

ためにはどうしたらいいかを考える

- ・洋装
- ・和装
- ・現代
- ・過去

本事業が対象とする分野

服飾資料所蔵施設が持っているデータベースを横つなぎに繋げて、横断検索を可能にしたもの

- ・博物館 ・美術館 — メイン
- ・企業 ・神社、寺院 ・個人

こちらにも貴重な資料を持っている

服飾資料所蔵施設への訪問調査（訪問日時順に掲載）

- ・ 共立女子大学(現：共立女子大学博物館)（東京都千代田区）
- ・ 女子美術大学美術館（神奈川県相模原市）
- ・ 和洋女子大学文化資料館（千葉県市川市）
- ・ 杉野学園衣裳博物館（東京都品川区）
- ・ 徳川美術館（愛知県名古屋市）
- ・ J.フロントリテイリング史料館（愛知県名古屋市）
- ・ 東京家政大学博物館(東京都板橋区)
- ・ 高島屋史料館（大阪府大阪市）
- ・ 奈良県立美術館（奈良県奈良市）
- ・ 京都文化博物館（京都府京都市）
- ・ 千總ギャラリー（京都府京都市）
- ・ 京都国立博物館（京都府京都市）
- ・ 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

1. 所蔵している服飾資料について

- ・所蔵数
- ・分類
- ・台帳作成手法

2. 自館のデータベースについて

- ・データベースの有無
- ・公開、非公開の別
- ・運用開始時期
- ・運用体制
- ・構築目的
- ・想定利用者
- ・公開資料の選定
- ・画像の取り扱い
- ・問題点

3. 横断的アーカイブについて

- ・必要性
- ・有効な検索条件
- ・データ提供側の要望

アンケート調査票（一部を抜粋）

調査名： _____ 記入者氏名： _____ 記入日 _____ 年 月 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますようお願いいたします。..

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。..

まずは、**直館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）**について伺います。..

0. はじめに..

0-1. 直館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。..

【およそ1500点（日本750、アジア150、ヨーロッパ600）、およそ100点（きもの50、附属品50）など】..

..

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。..

① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している..

② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない..

③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）..

..

0-3. (0-2で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。..

① 1件 自館で運営するDBが1件ある..

② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している..

（提携先（DB名称）： _____）..

..

0-4. (0-2で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。..

【構想は2002年、準備開始は2004年、公開開始は2006年秋に始まる、など】..

自館DB： ..

..

提携DB： ..

..

0-5. (0-2で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はありますか。お有りでしたらそのおおよかな時期についてお教えてください。..

..

..

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査結果

※データベースはDBと表記

成り立ちが異なる

保存・管理を
目的として収集

元々資料を所蔵
していて、後から
博物館・美術館
になった

資料整理が
追いついていない

訪問施設		公開 デジタルDB	非公開 デジタルDB
1 公立 博物館・美術館	京都国立博物館	有	有
	奈良県立美術館	無	有
	京都文化博物館	有	有
	国立歴史民俗博物館	有	有
2 私立 博物館・美術館	徳川美術館	無 (検討中)	有
3 大学 博物館・美術館	共立女子大学博物館	無	有
	女子美術大学美術館	無	有
	和洋女子大学文化資料館	無	無
	杉野学園服飾博物館	有	有
	東京家政大学博物館	無	有
4 企業 (呉服屋系)	J. フロントリテイリング史料館	無	有
	高島屋史料館	無	有
	千總ギャラリー	無	有

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

京都文化博物館の公開データベース

「京の記憶アーカイブ」 <http://www.archives.kyoto.jp/>

The screenshot displays the Kyoto Archives website interface. At the top, there is a navigation bar with the title "京の記憶アーカイブ" (Kyoto's Memory Archives) and various utility links like "ツイート" (Twitter), "いいね!" (Like), and "京観学・歴史館サイトはこちら" (Go to the Kyoto Studies and History Museum site). Below the navigation bar is a main gallery of image thumbnails. A central thumbnail is highlighted with a larger view, showing a historical map titled "みなとの留萌と旭川" (Minato no Ryoumou to Asahi-kawa). Below the gallery, there are several content sections: "まとめて検索" (Search by category) with a search box and "検索" (Search) button; "おすすめコンテンツ" (Recommended content) with a list of items; "資料ガイド" (Archive Guide) with a list of items including "百人一首 -お正月の遊び-" (Hyakunin Isshu -New Year's Play-); "行事案内" (Event Guide); "お知らせ" (Notice); and "京の百年" (Kyoto's 100 Years).

共通認識

公開データベースに対する考え

多くの施設が、公開データベースを整備したいと考えている

- ・館蔵品を広く知ってもらいたい
- ・社会貢献
- ・時代の流れ

問題点

- ・慢性的な人員不足
- ・予算や助成金が確保できないと整備は難しい
- ・DBの整備は緊急性がなく、後回しになってしまう

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査結果

	DBに対する考え方	予算	重視するポイント	画像の貸出
1 公立 博物館・美術館	国有・県有財産であるため、情報公開には積極的	国や県主導でプロジェクトが始動し、予算がつけば大規模な公開DBが作れる	サイバー攻撃の標的になりやすいのでセキュリティ面を重視。クラウドでは心配	有料での貸出 (商用目的以外であれば、申請を求めない場合もある)
2 私立 博物館・美術館	収益に直結しないため、必ずしも優先順位は高くない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものがない	有料での貸出 (大事な収益)
3 大学 博物館・美術館	資料調査が不十分で公開に至らない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものがない	無償での貸出 (要申請)
4 企業 (呉服屋系)	資料調査が不十分で公開に至らない 営業活動が優先	助成金を得にくい(営利企業なので)	低予算、低負担でできるものがない	無償での貸出 (要申請)

訪問調査を経て感じた問題点

1. データベースに対する概念が、各館によって異なっている

- ・一般来館者向け(名品紹介)
- ・研究者向け(所蔵品の大半のデータを公開)

2. 資料の分類や名称に統一的な基準がない

- ・他館のデータベースは検索しても希望している資料を見つけられない
→他館のデータベースは使えない、使わない
- ・服飾資料の分類や名称について議論がなされていない



横断的デジタルアーカイブを構築する際に、大きな障害になる

しかし、現在使用されている分類・名称は、各博物館・美術館が培ってきた文化でもあり、簡単には変えられない

3. システムや権利関係の専門家が館内スタッフにいない、また、それについて相談する窓口もない

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

服飾資料の横断的デジタルアーカイブについて

	横断的アーカイブについて
1 公立 博物館・美術館	あるとよい 公開DBが繋がることに問題はないが、セキュリティー面が心配
2 私立 博物館・美術館	あるとよい と思うが、データ提供は容易ではない
3 大学 博物館・美術館	あるとよい が、自館のDBが未整備なので、現状では難しい。自館のDBが整備されればデータ提供も可能
4 企業 (呉服屋系)	あるとよい が、自館のDBが未整備なので、現状では難しい。自館のDBが整備されればデータ提供も可能

所蔵品を広く知ってもらいたい
という思いと、研究や業務に
使いたいという思いがある



学芸員の業務負担はなるべく
少なくして欲しいという本音
も見える

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

まとめ

1. 公開データベースが未整備の施設が多い

未整備の理由は、4つのグループによって異なるが、共通の問題は人員・予算不足

2. 施設側として、データベースを急いで公開するメリットをあまり感じられない

- ・来館者が目に見えて増加するわけではない
 - ・業務・研究活動に大いに役に立つというわけでもない
- } 後回しになりがち

3. 服飾資料について議論がなされていない

名称や分類など

} これまで機会がなかった

4. データベースやアーカイブに対する概念が各施設、個人によって異なっている